

Tennis House

February  
2  
2015

from



Introduction of Staff  
#13  
Chiho Nakajima

ついにファンの神が  
自身の全てを語る！

## ヘッドコーチ 中島 千穂

3月15日生まれ  
千葉県野田市出身

全日本ランキング最高位 シングルス60位  
ダブルス33位

言わずと知れたファンの神様。オープン当時からファンのスタッフ達のお姉さんとして、多くの後輩を育ててきた。大学からテニスを始め、全日本選手権へ出場するという神業をやったのけた。指導者としても、現在世界で活躍する選手を数多く輩出している。



### はじめに

いつも本誌をご愛読いただき、誠にありがとうございます。おかげさまで本誌も1周年を迎える事が出来ました。そして、1周年という一つの節目にこの方を登場させる事が出来る事を、大変うれしく思います。皆様が待ちに待ったこの方の全てを、どうぞご堪能ください。

編集部 もとき

### テニスとの出会い

私が進学する大学が高校の先生の母校だったんです。それを知った先生から「(母校に)行くならオレが入っていたサークルに入れよ!紹介しとくから」と言われたので、入学後すぐに見学に行きました。すると、主将が『前の話は聞いている。もう入部になっているから』と。もう既に私の道は決められていたんですね。テニスは初心者でしたが、行ったその日から先輩方のご指導を受けました。先輩は実力のある選手ばかりでしたし、初対面の私にも厳しく指導をしてくださったので、一体この人たちはどんなテニスをするだろうと。そういう思った思いもあって、

先生に敷かれたレールの上を突き進んでいくことに決めました。今でも、その先生には感謝しています。

### 選手時代の思い出

大学時代から試合にはよく出場していたので、卒業と同時に本格的に国内ツアーを回ることになりました。日中は試合をして夜はレッスンをするという、そんな選手生活を送っていましたね。周りの選手はジュニア時代から経験を積んでいたりと、インターハイなどで活躍したりしていた選手ばかりだったので、大学からテニスを始めた私はまったくの無名でした。そのおかげでよくなめられていましたね。名前で相手を圧倒できるのはそれだけで有利ですが、そんな選手たちを倒していくことに私は面白さを見出していました。相手からすれば私はチャレンジャーですから、追い上げられるプレッシャーがあったのかもしれない。それに比べて、私は純粹に試合の緊張感だけを楽しんで戦うことができたので、その点が良かったんじゃないかと思います。



## 思い出の試合

どの大会だったかは覚えていないんですが、ものすごく競った試合をしたことがあったんです。結局その試合は負けてしまった、試合が終わったあとに大会レフェリーの方からこんなことを言われました。「お前、入ってるボールを全部アウトって言われてたじゃないか」と。セルフジャッジの試合だったので、レフェリーの方は口出しができなくてやきもきしていたんだと思います。でも、人によってジャッジが変わってしまうのは仕方のないことだと思ったので、「セルフジャッジは、ネットの向こうが暗闇と同じじゃないですか」と私は思ったことをそのまま言ってしまうました。その時にレフェリーの方が悲しそうな顔をされていたのを、今でも鮮明に覚えています。セルフジャッジが悪いということでは決してありませんが、生身の人間を相手に戦っている以上、ある程度の誤差は覚悟しなければならぬと思います。ミスジャッジをされる度に腐っているのは、本来の自分の力は絶対に出せないですからね。

## レッスンのこだわり

なるべくボールを打つ機会を多く設けることで、皆様にテニスを楽しんで頂くことを第一に考えています。つまらないように思える地道な反復練習で得たものは、試合の緊張した場面で絶対に力になってくれます。少しでも自信を持って打てるボールの確率が上がると、テニスがより楽しくなります。私のレッスンはよく部活と言われますが、青春時代を思い出して一緒に部活を楽しんでみませんか(笑)

## マイブーム

関コーチが喜ぶので、お客様を含めたみんなまで彼をいじることです！例えば、ライティング✕ガットの宣伝ポスターでモデルデビューをした関コーチですが、なぜか目の上に貼られた注意書き…。これは私の仕事ではありませんが、どう見ても嫌がらせですよ。でも、それを見て皆さん笑顔になるといふ(笑)そんな彼の魅力をどんどん引き出していければいいと思っております。

## 皆様へ

テニスハウスファンには、たくさんの楽しみが転がっています！明るくノリの良い



フロントさんとお話していると楽しくて時間を忘れてしまい、気付いたら2時間経っていたなんて経験をされた方もいらっしゃると思います。それに、選手として活躍しているコーチのボールを実際に受けてみたり、彼らの試合を見に行ったりするのも楽しみのひとつではないでしょうか。

テニスをしていると、調子が良い日も悪い日もあると思います。でも、それを含めたすべてがテニスなので、気落ちすることなくどんな状況も楽しんでプレイしていきましょう！

Tennis House

*fun*<sup>®</sup>  
テニスハウスファン